



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



熱田白鳥地区の歴史を聴講する児童(名古屋事務所)



木のあたたかみに触れて 林業の歴史を学ぶ



主な項目

- 小・中学校における総合的な学習へ支援 P2
- 各地からのたより P4
- 寄稿 御神木・林鉄に乗る P8
- シリーズ「森林官等からの便り」 P9
- シリーズ「ご当地自慢」 P10

木質バイオマス発電事業を睨み 県が現地研修会

「名古屋事務所」十月二十一日、「未利用木材の効率的な収集・運搬に関する現地研修会」が、岐阜県可児市兼山地内民有林及び森林整備モデル団地「蘭丸ふるさとの森プロジェクト」において開催されました。

本現地研修会は、十二月から本格稼働となる(株)岐阜バイオマスパワーの事業開始を念頭に、未利用材の収集・運搬をいかに効率的にシステム化できるかなどの検討を行うことを目的として、岐阜県産材流通課主催、岐阜県森林施業協会及び岐阜県素材流通協同組合共催により開催されたものです。当日は岐阜県内外から六十名余の参加者が集まり、当局からも局・岐阜署・東濃署・名古屋事務所から九名が参加しました。



フォワーダによる実演の様子



意見交換会の様子

研修会では、岐阜県産材流通課長沼課長の開会挨拶、(株)バイオマスエナジー東海代表取締役藤村氏からの「瑞穂市における木質バイオマス発電事業の概要説明」に続き、バイオマス対応型フォワーダによる末木枝条の収集・運搬の実演、ハーベスタ、グラップル、荷台着脱式フォワーダによる未利用材の収穫・採材・収集・運搬作業の実演が行われました。

午後からは現地研修会を踏まえ、パネルディスカッション形式の意見交換会が行われ、名古屋事務所からは、山元所長がパネラーとして出席し、木質バイオマス事業への国有林としての取り組みや立木システム販売等、新たな木材供給の手法などの説明を行いました。

意見交換会では、主伐箇所から生じる端材や末木枝葉の買い取り価格、大型車が通行できる搬出路網開設等の課題の共通とともに、この事業を成功させるため

に全員が協力していくとの強い決意が示されました。

小・中学校における 総合的な学習へ支援 木を使って環境を守ろう！

「名古屋事務所」小・中学校における総合学習は、様々な取り組みが行われていますが、私立愛知中学校では、一年生が「環境」をテーマに数人のグループで「調べ学習」をして取りまとめ、発表を行っています。この度、「森林伐採と生物の絶滅」という研究テーマを設定したグループ六名が名古屋事務所へ学習に訪れました。

生徒たちからは、「森林を伐採するとどんな生物が少なくなっていくのか?」「中部森林管理局では稀少な生物を守るためどんな取り組みをしていますか?」「といった質問が矢継ぎ早に出され、対応した職員は「日本では法律や森林を守る制度などによって、森林の木を伐つたら苗木を植え、育て、再び森林にすることになっており、生物の多様性にも留意しています。」などと、パワーポイントを使用して説明しました。

生徒たちから「木を伐って使うことは環境破壊だと考えていたが、伐って使ってまた植えて育てる、ということ循環型社会が形成され環境が守られることがわかった。」「木製化にしていく重要



「木曾式運材」のビデオを視聴する生徒

職員への聞き取り学習の後は、展示室の見学、マイ箸づくり、架線集材のジオラマでの集材機の運転体験を行うなど有意義な一日となったものと考えています。

昔から公園だったのかな?

十一月五日には、名古屋市立白鳥小学校の六年生六十名が、「熱田白鳥地区」の歴史を学ぶため名古屋事務所を訪れました。

今では白鳥公(庭)園や大学、国際会議場などが立ち並び名古屋事務所周辺ですが、かつては水中貯木場がありました。

江戸時代の初期、名古屋城築城を契機に木材市場発祥の地として歴史の幕を開けた「白鳥貯木場の始まり」について職

員がパワーポイントやパネル写真を用いて説明を行いました。



集材線のジオラマで学習する児童

歴史を学んだ後の自由時間では展示コーナーでジオラマの操作や、実物のチェーンソーの重さに触れ「こんなに重い物を持つて木を伐ることできるの?」と驚くなど見慣れない林業機具を新鮮な表情で観察していました。

「森林ボランティア・NPO連携推進会議」

十周年を迎えて

「木曽森林ふれあい推進センター」十月三日・四日の二日間、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が、諏訪郡下諏訪町にて開催されました。この会議は、中部局管内で活動する森林ボランティアやNPO団体間での交流促進、相互研鑽を目的として開催しているもので

す。今年は記念すべき十周年の節目を迎え、長野県の後援、地元下諏訪町の共催を得て、参加団体数十六、人数は過去最高の七十四名と大変賑やかな会議となりました。

初日は、参加団体の見識を広げるための講習会を行うこととし、「御柱祭」で有名な諏訪大社の下社秋宮において、諏訪湖博物館館長の宮坂徹氏から、建造物の構造や意味、諏訪大社の歴史や祀られた神々の神話等、大変興味深い説明があり、誰もが真剣に聞き入っていました。

その後、秋宮の社殿に施された松皮葺屋根について、京都の社寺等屋根工事技術保存会大野浩二氏、栗山弘忠氏を講師に、実物の檜皮を手に取りながら、材料の取り方から加工の技術、葺き方までの説明があり、参加者からは伊勢神宮との葺き方の違いや竹釘の強度などに質問が



下社秋宮で説明を受ける皆さん



参加された皆さん

及び、卓越した伝統技術が継承されていることに皆さん感心しきりでした。

秋宮境内等では、下諏訪町木遣保存会により特別に「木遣り唄」を披露していただき、参加者全員で両手を振り上げ「ヨイサー！ヨイサー！」の掛け声を合わせました。諏訪大社下社にまつわる様々な伝統文化に触れ、活気溢れる初日が終了しました。

二日目は、恒例の「森・ふれあいフェスタ」を、諏訪湖畔にある「みずべ公園」にて開催。今回は、土からできた不思議な絵の具を使ったパスアートや竹とんぼ、竹笛作りに加え、薪割り体験や松皮葺体験、チェーンソーアート実演など大人でもワクワクする充実した内容となりました。今年初めてのブースとなる「檜のマイ箸づくり」や年輪を知るため

の「baumクーヘン作り」は特に子どもたちが集まり、待ち時間が発生してしまふほどに人気を博しました。

また、下諏訪町のゆるキャラ「やしまる」と「万治くん」の登場で会場をさらに盛り上げてもらい、累計八百名の参加者に木や自然素材の数々と触れ合ってもらう機会をつくることができました。

参加した各署・所の職員も、様々なスキルを持った団体の技術と接する機会となり、二日間を通して充実した連携・交流の場となりました。

技術者育成研修



「森林技術・支援センター」森林総合監理士（フォレストア）育成のため、その候補者となる技術者育成研修（中部ブロック研修）を九月九日～十二日までの四日間、下呂温泉旅館会館及び岐阜県管内の乗政国有林、七宗国有林をフィールドに実施しました。

この研修は既に実施済の技術者育成研修（中央研修）修了者の現地実習等を主体に行うもので、中部地方など七県から県、市町村、国有林の職員の二十七名が受講しました。

研修では、市町村森林整備計画や森林経営計画の概要・演習、路網と作業システム、森林施業の集約化など多岐にわたるカリキュラムを通じ、地域の森林・林業関係者を的確に支援・指導できる人材

「森林技術支援センター」十月七日～十日の四日間、森林技術・支援センター及び小川長洞国有林において、森林技術研修を実施しました。この研修は森林整

森林技術研修



育成を目的としています。受講者の皆さんには、フォレストスターに必要とされる「技術力・構想力・合意形成能力」の習得を目指し、積極的に研修に参加していただきました。

研修終了後は、市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行うこととしており、この研修で得たネットワークを活かしながら地域の森林・林業の再生、山村地域の活性化に大きく貢献されることが期待されています。



研修の様子



現地実習の様子

備事業体の監督・指導等に必要となる森林技術の向上を図ることを目的に実施するもので、各署の経験の浅い森林官等、六名が受講しました。カリキュラムは、「集材作業に関する知識」「集材施設の概要及び集材機の操作、各種設備点検方法」「伐木造材及びチェーンソーに関する知識」「安全関係法令等に関する知識」等多岐にわたり、実際に集材機・チェーンソー・刈払機・バックホウの操作を体験しました。なかでもチェーンソーの伐倒及びかり木処理・造材の実技では、安全な作業方法について、熱心に講師の指導に耳を傾けていました。今後は、今研修で学んだことを実際の業務に活かすとともに、森林技術の向上のため、さらなる自己研鑽が期待されることです。

各地からのたより

GSS活動を振り返って

【中信署】 中信森林管理署ではGSS（グリーンサポートスタッフ）として六月十六日～十月三十一日まで十一名を任命し高山植物保護や美化活動、公園利用者へのマナー指導等を行ってきました。

十月三十一日に今年度の活動を終え、GSSの終了式と併せて活動報告会を実施しました。各班の特色と活動報告について紹介します。

【美ヶ原班】 松本市美ヶ原を中心に百名山「王ヶ頭」の周辺で活動し、観光客のマナーの向上や希少種の保護活動に貢献するとともに、観光客に対して花の名前や遠方の山の名前を説明しています。

指定希少野生動物植物であるアツモリソ



看板設置の様子(美ヶ原)

ウをニホンジカの食害から守る取り組みとして、新たに電気柵の設置を行い、その成果も少しずつ現れてきました。

【上高地班】 松本市上高地を中心に観光客へのマナー向上を目的に各法律による制限の周知をはじめ、地域のルール説明や各行政機関及び関係者と協力しながら希少種の保護活動、外来種の除去、サル追い活動を行っています。また、これらの活動に併せて美化活動や危険木の点検等を行っています。上高地では、その他の団体によるパトロールも行われていますが、多くが集団施設地区を中心としており、GSSによる広範な活動が高山植物等の保護や観光客のマナー向上に大きく貢献しています。



歩道整備の様子(上高地)

【乗鞍班】 松本市乗鞍を中心に活動しています。乗鞍岳は標高二千七百メートル地点までバスによる乗り入れができ、比較的気軽に登山ができること、また大雪

溪ではスキーが楽しめ、ハイマツ地帯ではライチョウが生息しています。

関係機関と連携した外来種の除去活動ではセイヨウタンポポやアラゲハンゴンソウの除去を行いました。

マイカー規制から十一年が経ち、年々高山植物の増加がみられています。



外来植物除去の様子(乗鞍)

今年度、各班共通して、高山植物等保護対策協議会で作成した四方国語で高山植物等の保護を表記したトレーディングカードを観光客等に配布したところ、「子どもから年配者まで大変に人気があり、山や植物の説明をするにも好印象で、マナーについても素直に聞いてくれた。」との報告がありました。

今年度は天候に恵まれず、乗鞍ではクマの出没が頻繁にあり、集客率はどこも低かったと思われます。そんな中でも中信署GSSの果たす役割は非常に大きいこ

とから、来年度以降も活発なパトロール活動を行っていきけるように取り組みたいと考えています。

韓国の林業関係者が来署

〔岐阜署〕十一月六日、韓国の林業関係団体（韓国アカデミー）の方々二十五名が当署を視察されました。

最初に会議室で、日本の森林の状況、公共建築物の木造化の取組、中部森林管理の業務内容等について説明しまし



業務等の説明を聞く皆さん

通訳を介しての説明となり、うまく伝わったかどうかは疑問も残りますが、木材利用に関し、日本の木材自給率、木材の輸入先、署庁舎の新築にあたっての使用樹種や使用量等の質問がありました。

その後、超高齢級人工造林地「赤沼田天保林」を案内しました。林内で、森林官からの説明を聞きながら林内を散策後、帰路につかれました。

富山県地域振興団体協議会

担当課長会議及び現地研究会

〔富山署〕十月十日、大牧国有林、大規模な集成材を使用した水見漁港場外市場の「水見番屋街」及び木の住まいの魅力を学ぶための「ウッドリンクラボ」において、富山県地域振興団体協議会担当課長会議及び現地研究会を開催しました。

この協議会は、国有林等地域部会をはじめ七部会が設置され、当面する諸課題の解決や地域の振興発展に取り組みであり、その活動の一環として当署との共催で平成十九年度以降、この会議及び研究会を毎年開催しています。



丸太残存型枠を使用した谷止工



水見番屋街の内部

今回、国有林野事業の紹介として、木材を多く利用している大牧国有林の治山工事を案内しました。この箇所は、平成二十年七月の集中豪雨により、山地荒廃が発生し、市道祖山線・国道一五六号線をはじめ下流の大牧温泉・小牧ダムに被害を与える危険性が高くなったため、緊急性を要する箇所から順次治山事業を進めています。

当日は、市町村の課長等十五名が参加されました。この現地視察により、国道や市道を守るために、発生源の山腹崩壊の復旧や溪流に堆積した土砂の流出を防止する必要性について理解を深めていただけたものと考えています。

水見番屋街では、大規模な施設でも集成材を活用し建築できることを実感し、目に見える柱・梁等にふれることで、木